

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------------|-------------------|----------------|-----------|
| 事業所番号 | 1472800364 | 事業の開始年月日 | 平成13年4月1日 |
| | | 指定年月日 | 令和2年4月1日 |
| 法人名 | 医療法人社団三喜会 | | |
| 事業所名 | グループホーム渋沢 | | |
| 所在地 | (259-1326) | | |
| | 神奈川県秦野市渋沢上1-13-28 | | |
| サービス種別 定員等 | ■ 認知症対応型共同生活介護 | 定員計 | 9名 |
| | | ユニット数 | 1 ユニット |
| 自己評価作成日 | 令和4年2月12日 | 評価結果 市町村受理日 | 令和4年5月18日 |
| | | | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域に密着した施設を目指し、2001年に開設し、本年度で20周年を迎えました。ホームより丹沢の山並みを見渡す環境の下、家庭的でゆったりとした雰囲気を大切にしています。ひとり・ひとりの認知度や症状、性格や身体状況に配慮し、個々の想い（不安）を受け止め、ひとり・ひとりに合わせたプランを作り、ホーム内には、季節を感じる飾り付けや季節の味覚を楽しむ食事等、今（その時）を楽しむ環境作りを心掛けています。2020年2月より、法人居宅サービス部感染対策委員会と連携し、感染予防対策を強化しながら、今まで秦野市内の色々場所へお出かけしていましたが、外出は自粛し、ホームの周りを散歩、役割活動（簡単なはき掃除・お花に水やり・テーブル拭き・洗濯物たたみとお部屋への格納他色々）を積極的に行い、家族やボランティアさんが来所できない中、イベントは欠かさず行い、スタッフによる、手品・漫才・寸劇・棒体操・〇×クイズ等、コロナ禍前より楽しいイベントが増えています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | | | |
|-------|-------------------------------------|---------------|----------|
| 評価機関名 | 株式会社フィールズ | | |
| 所在地 | 251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階 | | |
| 訪問調査日 | 令和4年3月22日 | 評価機関 評価決定日 | 令和4年5月7日 |

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「渋沢」駅より徒歩10数分の所にあります。今年で事業所開設20年目を迎え、所在は丘陵地の見晴らしの良い住宅地に位置し、2階建屋の1階に1ユニットのグループホーム、2階に認知症対応型デイサービスがあります。運営は、介護・医療・看護の連携した医療・福祉サービスを経営する社団医療法人が行っています。

<優れている点>

利用者一人ひとりに寄り添った、事業所で安心して過ごせる介護支援を行っています。「終末期ケアに本腰を入れた取組み」は、不安を抱く看取りの心配なく、終の棲家として日々を安心して過ごせるよう、介護・医療・看護の連携したサービスを行っています。もう一つは「家庭的な暖かさのある介護支援」があります。食事は材料の調達から調理まで事業所自らがきめ細かく行い、利用者個々が役割を持ち、得意な作業を担い、深い理解と愛情のある認知症ケアなど配慮ある介護を行っています。管理者は秦野市のキャラバンメイト（認知症サポーター研修の講師）としても活動しています。

<工夫点>

地域密着を目指し、地域に根ざした活動を推進しています。自治会役員を始めとする地域の方々との付き合い、こども園との共同野菜収穫、管理者の特技を通じた高校プラスバンドの指導など、交流ネットワークを広げています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

| 評価項目の領域 | 自己評価項目 | 外部評価項目 |
|------------------------------|--------|--------|
| I 理念に基づく運営 | 1～14 | 1～10 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 15～22 | 11 |
| III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 23～35 | 12～16 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 36～55 | 17～23 |
| V アウトカム項目 | 56～68 | |

| | |
|-------|-----------|
| 事業所名 | グループホーム渋沢 |
| ユニット名 | 1階 |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38) | ○ | 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28) | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| | | | |
|----|--|---|--|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19) | ○ | 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4) | △ | 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12) | ○ | 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。 | ○ | 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 2019年に新しい理念ができ、理念にある『笑顔と温もりのあるグループホーム』を目指し、毎月のカンファレンスで理念を確認し職員全員で理念を共有実践いたします。 | 職場風土の改善と、日々の活動の指針となるよう、3年前に職員と共に検討を重ね、現在の事業理念に見直しました。玄関や事務室などに掲示、周知すると共に、毎月のカンファレンス資料に理念を書き入れ、常に認識できるようにしています。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | コロナ前は、近隣に小学校・こども園があり、お祭りなどに参加していましたが、今年度は、ホームの前の地域の畑の方に野菜を貰ったり、スタッフが野菜の作り方を教わる程度の関わりしかできない状況です。 | 地域の一員として、自治会の役員や地域の人々との触れ合いを大切にしています。コロナ禍の現在は、感染症予防のため最小限度にとどめていますが、近所の小学校・こども園と野菜の収穫を通じ、施設の納涼祭には近所の人々の来訪など、交流の輪を広げています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 管理者が秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会に所属していて、コロナ禍で以前とは違いますが、サーポーター講座をリモートや、小人数で行い、地域の方へ認知症の理解を促している。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 今年度は、秦野市より、新型コロナウイルス感染症対策の為に中止との指示もあり中止中ですが、ホームの近況報告はしております。 | 現在はコロナ禍のため、対面での会議を中止し、書面による報告をしています。従前は、地域とのかかわりが増やすため、地域の人も参加し、「地域との触れ合いを増やすには」などのテーマの質疑も行って行きました。地域との関わりを学ぶため職員も交代制で参加しています。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 今年度は、新型コロナウイルス感染症対策の為にいつものようにはいきませんが、管理者が秦野市認知症キャラバン・メイト連絡会の役員のため、市と渋沢高齢者支援センター（包括）とは常に連絡をしている。 | 秦野市役所の担当部署は「高齢介護課」になります。市役所や地域包括支援センターとは、運営推進会議や認知症キャラバン活動を通じ、連携をとっています。保健福祉センターが主催する福祉フェスティバルでは、ブースにてグループホームの紹介を行っています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。 | 『身体拘束等適正化のための指針』を作り、毎月のカンファレンスで検討委員会を開き、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組む。 | 身体的拘束適正化の指針を整備し、全職員が参加する毎月のカンファレンスの検討項目に取り上げ、職員の注意を喚起しています。身体的拘束廃止委員会は、運営推進会議の検討項目の一つとして、状況確認を行っています。現在、家族の同意を得てベッド転落防止センサーを使用しています。 | |
| 7 | 6 | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 毎月のカンファレンスの際には、必ず虐待防止を取り上げ、早期発見、事前防止に努めています。身体拘束・虐待防止の勉強会もYouTube等も利用し、勉強会も実施 | 高齢者虐待防止法は、法人との合同研修会や事業所での研修にて職員の理解を深めています。職員による虐待防止のため、毎月のカンファレンスにて状況の確認を行い、更にチェックシートを用いて職員のメンタルヘルスチェックも行っています。 | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 管理者が研修に参加しており、ご利用者様に必要が生じれば、市の担当者の協力を得て、制度を活用する準備ができています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約以前に、面談時や入居までの間、まず不安を抱えている、家族の話をしっかり傾聴し、認知症の説明（理解）をして、グループホームでの生活の理解を促している。 | | |
| 10 | 7 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 毎年の外部評価のご家族のアンケート（ご家族の意見）はとても参考になり年度初めは必ずその意見を反映し目標にも入っている。今年度は担当者会議が書面上となり、ご家族と顔合わせての話が出来ず、電話やメールでの対応となる。 | 利用者からの意見は直接傾聴し、家族の意見は来訪時や電話で確認しています。外部評価のアンケートは普段は気付かないことが聞ける重要な機会になっています。意見は、事業所のカンファレンスにて職員と共有し、対応を図っています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | 8 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 認知症介護においては、チームケアが基本で有る為、運営に留まらず、職員の意見を積極的に聞き、すぐに対応している。 | 日常の運営に関する意見を、毎月行うカンファレンスの場の中で話し合っています。年2回の定期的な個人面談の場で人事や経営に関する意見を聞いています。職員から主体的に意見を聞く機会としています。 | |
| 12 | 9 | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 人事評価において、個々の得意、不得意を明確にしてあげ、チームケアでは人間関係が1番、カンファレンスではできるだけ全員が参加できようとして、色々意見を出してもらい、全員で共有できる環境を作る。 | 残業はやむを得ない場合に限り認め、休暇は申請に応じ、健康管理やストレスケアも定期的に行っています。職員のやる気や向上心を促すため、職場での雰囲気作りに配慮し、利用者と一体感を共有できる職場環境整備に取り組んでいます。 | |
| 13 | 10 | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 本年度は、毎年行っていました、法人内の介護研修が中止となり、毎月のカンファレンスで、今困っている、事例等を上げ、それに合わせた、勉強会を実施。 | 人材育成の柱として、法人の行う介護研修と、事業所の研修計画に基づくテーマ別研修を進めています。外部研修は、地域包括支援センターが行う研修を利用しています。職員のキャリアパスとして、認知症リーダー研修を一つの目標として勧めています。 | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | コロナ前は、市内のグループホームの管理者と交流し、意見交換等していたが、今年度は、電話やメールで深い話はできていない、法人内では、リモートで教育チームと意見交換等行う。 | | |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 初期は特に【 気配り・目配り・心配り 】を徹底し、『何が本人様にとって1番心地よいか』と考え支援しています。入居間もない時は、心細いのでさりげない声掛けや、入居前の環境との違い（在宅・施設・ショートステイ）を十分配慮する。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 見学時や、入居前に数回お会いし、ご家族の要望等をお聞きし、不安な点や他の施設とグループホームの違いや、個別対応等の説明等もしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 相談を受けた際は、利用者と家族の状況を第一に考え、事業所だけで解決しようとせず、関係機関と連携を取り、他のサービスも視野に入れたり、病院でお薬の調整後、入居された事例もあります。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 看取りも対応している当ホームは、『共に生きる』を合言葉に、ご利用者様と職員が同じ空間で笑い、同じものを味わい、感じる、理念に基づき暮らしを共にする関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | ご家族もチームケアの一員とし、コミュニケーションを意識的に取るよう心掛けています。面会時には、現状報告のみではなく、事例などを出しながら、認知症を理解して頂くお話も致します。 | | |
| 20 | 11 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 本年度は、コロナ禍でもあり、直接行ったり、会ったりできないので、馴染みの場所の話や、動画をみたり、DVDなどで対応、『はだのたばこ祭り』のDVDは皆さんなじみがあり、好評！たばこ音頭が鳴ると・・・踊り出す！ | 入居前の面接やアンケートなどで利用者のこれまでの生活歴を把握し、従前の関係性を維持できるように努めています。友人の来訪や連絡の取り次ぎ、馴染みの店や場所への外出支援に努めています。コロナ禍の今は、最小限度に止めています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 利用者同士の関係を見極め、場面設定したり、座る席を考慮して、円滑な交流が図れるよう支援し、トラブルになりそうな場合は介入しています。レクリエーションや散歩等では、利用者同士のコミュニケーションを図っています。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | サービス終了後も困ったことや介護のことの相談を継続しています。終了後のご家族で認知症の理解者の方、コロナ前は地域住民代表で運営推進会議に参加していただいていた。 | | |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 12 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 認知症の重度化により、本人の意向が掴めない時は、その利用者が認知症でなかったら、どう判断するかが重要になるので、発症前の生活の様子を再度アセスメントしています。 | 入居前に複数回、利用者の住まいを訪ねて話を傾聴し、「私のことをよく知ってくださいシート」を使って利用者の思いや基本的な生活課題を把握しています。ドライブや買い物に行きたいなど、できる限り対応し、利用者との関係を深められるよう努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 生活歴を把握し、能力が最大限に発揮できる生活が送れるように（自分らしく生きる）できること・できないことを見極めケアに活かしている。（私のことを良く知ってくださいシートをカ活用） | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | のんびり、ゆったりを基本に心地よい疲労感、活動ができるように個別にデイタイムケアプランをたてており、その場の状況に合わせて柔軟に行っています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | 13 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 介護計画にあたっては、居室担当中心に全ての職員で意見を出し合い決めている。利用者の心身に変化が現れた際は家族、関係者等と話し合い、本人の負担を考慮し、新しい計画を作成している。 | 介護計画はモニタリングとアセスメントを基に、管理者、ケアマネジャー、居室担当と家族で構成される担当者会議の内容も加味した上で、職員全員が参加するカンファレンスを通じて作成されます。全員参加によって多面的な意見の反映と計画の職員への徹底が計られています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 利用者の様子を個別ケア記録に記入し朝・夕の申し送りや、カンファレンスにて情報の共有を図り、ケアプランの見直しの前に担当者会議（ご家族・ケアマネ・管理者）を行いに直しする。コロナ禍なので、電話と書面上で行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 医療連携加算を受けており、1週間に2回看護師が対応し、ご利用者様健康維持に努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 自治会に加入しており、回覧板等により、地域の情報が入る。コロナ禍の為行事等は中止、ホームから地域の方々へ発信と9月（世界アルツハイマーデー月間）の際、玄関や駐車場に認知症への理解を深めてもらうため、ポスターやリーフレットを掲示した。 | | |
| 30 | 14 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 通院が困難な利用者が多く、その為往診を含めて協力医と情報交換をしながら、利用者の健康維持に努めています。協力医とは、細かいことも連絡し連携を図っています。 | 利用者や家族の了解のもと、利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医としています。訪問診療は月1回、看護師が週2回来訪し連携しています。外来受診の付き添いは家族の対応ですが、医療内容の管理は管理者も支援しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 医療連携加算を受けており、1週間に2回看護師が対応し、ご利用者様健康状態を確認、又具合の悪い方には、協力医の指示にて、訪問看護が入り支援しています（本年度は、褥瘡（ポケットあり）の方を対応しています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院の際は、協力医に相談し、紹介状を書いていただき、入院の際は、ご家族が不安で管理者も同席し、Drの説明や退院に向けた情報交換をしています。 | | |
| 33 | 15 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 入所時に重度化指針を書面でご家族に説明して了解を得ています。重度化した場合や終末期には、ご利用者様にとって、1番良いと思われる方法を家族や協力医等の関係者と相談して決めています。 | 入居時に「重度化の指針」を家族に説明し、了解を得ています。体調変化をきっかけに家族、協力医と相談して看取りの体制に入ります。法人の訪問看護ステーションと連携を取り、職員への研修も改めて実施し、万全の体制を整えています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 事務所の目の付くところに緊急事対応マニュアル、入居者検索マニュアル、緊急連絡網を掲示、誰でも対応できるようにしています。 | | |
| 35 | 16 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 定期的に防災訓練を行い、秦野消防本部に報告しています。今年度は、大家さんをお願いし、外（お庭）から畑へ抜けるドアを作ってもらい、防災訓練は、そこから出る訓練をしました。 | 年2回、深夜の夜勤職員1人の場面を想定して避難訓練を行っています。利用者・職員と近隣住民の参加も得て行い、訓練後は消防署に報告しています。訓練を通じて、2方面の避難ルートのうち一方に問題があることが判明し、庭から隣の畑に通じるドアを設置するなど改善にも繋がっています。 | 災害用備蓄が日々消費する食品の保存と同じ場所に置かれています。必要な備蓄量は確保されていますが、管理上、より明確に分けて備蓄されることが望まれます。 |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 17 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | ご利用者様には、苗字に『さん』付けで呼ぶことにしており、人格を無視した言葉掛けや態度を取らないようにしています。また個人情報に関わるものは、事務所の鍵付きの棚に保管 | 利用者は「さん」付けで呼びかけることが習慣化しています。人格の尊重とプライバシーへの配慮については毎年研修を行い、意識するようになっています。不適切な対応に気がついた場合には職員がお互いに注意し合う体制を作っています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | ご利用者様の声に耳を傾け、何を望んでいるかを考え、話しやすい環境作りを心掛けています。馴染を作る関係作りが大切 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 業務優先になりがちな日々、毎月のカンファレンスでは、毎回この議題が上がる、日々変わるご利用者の状態に業務帯の内容を変更し、どの業務帯の職員もすぐにご利用者様に寄り添う対応ができるよう努力を重ねています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 朝のモーニングケアは、ご利用者様に合わせ、Bed上で行う人と洗面所で行う人と様々、3か月1回、訪問理美容が来所し、ご利用者様の希望に合わせたカットやカラーにしています。 | | |
| 40 | 18 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | ホームの畑で取れた野菜や地域の方に頂いた野菜を食宅へ、また秋はバルコニーで『秋刀魚』を炭で焼き、召し上がってもらい、味だけでなく、目でも楽しむ食事を心掛けている。 | 献立から調理まですべてホームで行い、利用者のリクエストに応える食事を提供しています。事業所の畑で収穫したサツマイモを食べたり、秋にはペランダで秋刀魚を焼いたりなど、皆で食事を楽しめるように工夫しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事量のチェック、栄養バランスを考えた献立を給食委員会がチェックをしながらメニューを決めている。水分はケア記録に記入し、不足気味の方にはお茶以外の飲み物等促したり試行錯誤する。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 毎食後口腔ケアを行う、義歯が合わなく義歯なしの方も増え、ガーゼで拭う等、誤嚥防止の対応をとっている。 | | |
| 43 | 19 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 夜間オムツの方は、日中はリハパンを使い、トイレ介助を行う。排泄チェック表を使ってトイレの間隔のある方には、声掛け誘導を行い、排泄パターンの把握に努める。 | 排泄チェック表を使って利用者の排泄パターンの把握に努めています。定期的な声かけで日中は失禁のないようトイレでの排泄を促しています。膀胱炎などの兆候にも注意しています。体を拭くタオルはホットボックス（タオルウォーマー）で温めたものを使用しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 排便コントロールは特に大事で、9名様の排便状況を把握、常にNSと相談し下剤の変更や、浣腸・レシカル対応も視野に入れている。 | | |
| 45 | 20 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 1日3名の入浴、要介護度の高い方は職員2名対応で支援し、毎年、地域の方より頂く、『ゆず』でゆず湯、菖蒲湯などお楽しみ入浴日もあり。またBed上での全身清拭・ケリーパットを使った、洗髪等行っています。 | 入浴は週2～3回で、午後が基本です。介護度に応じて見守り支援を行っています。一部介助の利用者もいますが、重度の人は2名介助で対応しています。重度の人のための介護用浴槽いすを検討し、使用することにより、利用者も職員も安心、安全で入浴しています。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 日中、車椅子の方はソファへまた午後はお昼寝の方も増えてきました。就寝するまで落ち着かない方は、寄り添い、作業やパズルなど集中するもので対応するなど、その人に合わせた支援を心掛ける。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬の説明書をファイルし誰でも見れるようにしている。与薬を間違えないよう名前や色分けし、朝・昼・夕と個別のBOXを用意、内服時は、2名で声出しで、名前と日付けを確認しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 洗濯たたみ・洗濯格納・メモ紙作り等役割活動を通し張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援しています。 | | |
| 49 | 21 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | コロナ禍で昨年度は1歩も出ませんでした。が、本年度は、春の桜のお花見（ドライブのみ）秋の紅葉狩り（ドライブのみ）等感染対策を徹底し行いました。皆さんとても喜ばれました！ | コロナ禍のため外出を制限していますが、それでも外出願望の強い利用者には近所で散歩を行っています。バルコニーや駐車場で外気浴もしています。利用者が楽しみにしている外出の多くは中止となっていますが、花見と紅葉狩りだけはドライブのみで実施しています。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | コロナ禍ですが、まだ入居したての方で、外にでたい・・・車に乗りたい・・・ドライブしたい方、馴染の店にお菓子屋やパンを自分のお金で購入をする支援をしています。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 面会禁止が続きご家族様にリモート（Zoom）等促しましたが、ホームからのお便り（写真付き）で十分とのご連絡を頂く。数名ですが、ご本人様と電話でのやり取りを行っています。 | | |
| 52 | 22 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | ほとんどの方が、居室のエアコン（温度）管理ができず、冬なのに冷房を入れたりとあり、ケア記録に3時間おきの温度記録を取り管理をしています。また今年20年ぶりにフロアのカーテンを明るい色に変更しています。 | 毎月の活動では季節の飾り物を制作しています。壁一面に制作物を飾り季節感を出し、明るく楽しい雰囲気になるよう配慮しています。階段や廊下には昔の映画のポスターや職員の似顔絵を貼り、懐かしく暖かい雰囲気になるように工夫しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 以前、食堂と居間が一緒だったので、環境を変え分け、食後は、ソファにてゆっくりTVを見たり、お話したり、自分の時間を過ごしていただく、壁には、利用者様と一緒に作った、季節の飾りを貼り居心地の良い空間を作る。 | | |
| 54 | 23 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室には、各個人の馴染みの物、使慣れたものを持ち込んで頂く。新しく入居された方が、どうしても落ち着かなく『こんなとこ、私の部屋じゃない』ご家族に相談、嫁入り道具の鏡台を持って来ると、鏡台の前に・・・数日後落ち着かれる。 | 全室畳の部屋となっています。エアコンとベッドは備え付けとなっています。利用者の馴染みのものを持ち込んでいます。居室での転倒を防ぐための手すりや、必要に応じて家族の理解を得た上でセンサーを取り付けるなど安全に配慮しています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | 廊下・トイレ・浴室には、手すりがあり歩行不安定な方にも、安心して歩けるようにしてあります。トイレの場所が分からない方には、手作りの矢印や目印を置いています。 | | |

2021年度

事業所名 グループホーム渋沢

作成日： 令和4年5月17日

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|--|-----------------|--|------------|
| 1 | | 災害備蓄が日々の食材倉庫と同じ場所であり、管理上明確に分けて有ると望ましい。 | 【災害備蓄品】明確に備蓄する。 | 災害備蓄の格納場所は、倉庫しかないの で、他の食材等は、別の棚に、分かりやすく【災害備蓄品】と明記して、災害時緊急時に誰でも取り出せるようにする。 | 2ヶ月 |
| 2 | | | | | ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |